

2025

武蔵野美術大学

造形
研究科

大 学 院 履 修 要 項

2025

武蔵野美術大学

造形
研究科

大 学 院 履 修 要 項

目次

大学院造形研究科 3

教育理念／歴史	4
大学院の教育目標／カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシー	5
大学院の沿革	6
大学院の構成	7
学事予定	8
教育課程および履修方法	9
武蔵野美術大学試験実施要領	12
個人情報の取り扱いについて	14

修士課程 15

造形研究科 修士課程 単位表	16
授業科目・担当教員一覧	18
美術専攻 日本画コース	20
油絵コース	22
版画コース	24
彫刻コース	26
美学美術史コース	28
芸術文化学コース	30
芸術文化政策コース	31
デザイン専攻 視覚伝達デザインコース	34
工芸工業デザインコース	36
空間演出デザインコース	38
建築コース	40
基礎デザイン学コース	44
デザイン情報学コース	46

博士後期課程 49

構成（研究領域）	50
授業科目および単位数	51

教育理念

武蔵野美術大学の教育理念は、昭和4（1929）年10月30日、本学の前身である帝国美術学校の創立に由来するものです。帝国美術学校の創立に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾（開校時学監）の手記には「教養を有する美術家養成」と記されています。また、創立時の中心人物のひとり名取堯（開校時主事）の『武蔵野美術』（創立三〇周年記念特集）に寄せられた30年の回顧には、「人間が人間になる道は厳しい鍛錬、たゆまざる精進の中であって、放任の中にはない、その框（わく）を固定させず、しかも、放縦に任せず、真に人間的自由に達するような美術教育への願い」であると語られており、美術を技術的専門性だけではなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えたのです。

このように、まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念であると言うことができ、国内美術大学では最大規模の造形教育の大学となった現在も、この教育理念を継承し堅持しています。

武蔵野美術大学大学院（造形研究科修士課程）は、本学の建学の精神に基づいて、造形学部教育とのつながりに配慮しつつ、そこで培った能力のさらなる発展を期するものです。大学院規則第1条に記すとおり、造形学部における一般的・専門的教育の基礎のうえに、美術・デザインに関する専門の技能、理論および応用を教授研究し、その深奥を究めた人材を養成し、もって文化の創造、発展に寄与することを目的としています。

さらに博士後期課程では、学部及び修士課程の総合的な教育・研究の上に造形芸術領域において、社会的に突出した人材の養成、輩出を目的とします。他に比較して優れている傑出した人材というよりは、高く鋭く突き出ている突出した人材の養成をめざしたいと考えています。より具体的には、造形芸術の分野において、確実な基礎の上に立った先鋭的な仕事をする人材、専門分野において先駆的・前衛的な仕事をする人材、歴史的成果を飛躍的に深化させる仕事をする人材、社会的な影響を及ぼすような仕事をする人材などを養成、輩出する高度な教育研究機関であり、また、際だった専門技術と知識の社会への提供と還元をはたす教育研究機関を目指します。これらのことが、本大学院の博士後期課程設置の理念となります。

歴 史

武蔵野美術大学大学院の発足に先立って、昭和37（1962）年に設置された造形学部の最初の卒業者のために、昭和41（1966）年、造形学部造形専攻科を進学先として開設しました。当時造形専攻科は、日本画専攻、油絵専攻、彫刻専攻、商業デザイン専攻、工芸工業デザイン専攻、芸能デザイン専攻の6専攻で構成されましたが、公式の称号・学位はありませんでした。こうしたなかで大学院設置が計画され、昭和47（1972）年11月に文部省に大学院設置認可申請を行い、翌年3月に認可され、昭和48（1973）年4月に武蔵野美術大学大学院造形研究科（修士課程・二年制）が設置されました。美術専攻には日本画コース、油絵コース、彫刻コース、デザイン専攻には商業デザインコース、工芸工業デザインコース、芸能デザインコース、建築コース、基礎デザインコースが置かれました。大学院修士課程として修了者には「芸術学修士」の称号を授与することになりました。その後、昭和55（1980）年には商業デザインコースが視覚伝達デザインコースへ、昭和60（1985）年には芸能デザインコースが空間演出デザインコースへ改称しました。また、美術専攻においては、昭和62（1987）年に版画コース、昭和63（1988）年に造形学コースを開設しています。

平成2（1990）年開設の映像学科の最初の卒業者に連動し、平成6（1994）年にはデザイン専攻に映像コース、平成11（1999）年開設の芸術文化学科、デザイン情報学科の最初の卒業者に連動して、平成15（2003）年には美術専攻に芸術文化政策コース、デザイン専攻にデザイン情報学コースを開設しました。平成18（2006）年には、デザイン専攻に写真コースを開設しています。また、平成20（2008）年には、美術専攻の造形学コースを、造形理論・美術史コースへ名称変更しました。

こうして修士課程の教育活動が充実していくなかで、造形芸術の分野においてもより一層高度の専門性を有する人材の養成への期待が高まり、平成16（2004）年に大学院造形研究科博士後期課程（博士課程・三年制）を開設しました。

また、平成31（2019）年の造形構想学部の新設に伴い、造形構想研究科・造形構想研究専攻（修士課程）が開設し、新たにクリエイティブリーダーシップコースと、造形研究科・デザイン専攻より移設された映像・写真コースが置かれました。さらに、令和3（2021）年には、造形構想研究科・造形構想専攻（博士後期課程）を開設するに至りました。

大学院の教育目標

造形研究科 修士課程

武蔵野美術大学大学院造形研究科は、その教育理念に基づき、次の教育目標を掲げる。

1. 独自の研究テーマを確立し、表現者・研究者として活動していくために必要な論理的思考能力を培うこと
2. 現代の社会状況を見据え、制作や研究を通じて社会に発信できる能力を培うこと
3. 世界的視野に立ち、専門家として自立して創作・研究活動を行う人材を育成すること

造形研究科 博士後期課程

近年、美術、デザイン、建築、映像等の造形芸術における表現領域においてはそれぞれ専門性が進化する一方で、多様化、横断化、複合化の方向に向かっている状況がある。このような状況においては、関連する学術研究の著しい進展や社会の変化に対応できる幅広い視野と総合的な判断力に基づいて個々の領域における専門性を深めることができる人材が求められる。

造形芸術専攻（博士後期課程）は、このような時代の変化や社会的要請を十分に踏まえて、高い専門的技能と広い視野、深い知識を有する造形芸術における（1）高度の専門的職業人、（2）研究者、（3）アーティスト、（4）教育者としての活躍が期待される人材の養成を目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

造形研究科 修士課程

- ・広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的として、カリキュラムを編成する。
- ・各専攻各コースとも共通して、作品制作や理論研究を裏付ける理論、技能の習得を通じて、論理的思考能力を養うとともに、自身の研究テーマを深化させて表現者・研究者としての自立をめざす。
- ・具体的な方針は、各専攻各コースのカリキュラム・ポリシーによる。

造形研究科 博士後期課程

- ・造形芸術に関する高度な創造、表現の技術と理論を教授研究し、自立して創作、研究活動をおこなうのに必要な高度の能力及び豊かな学識、さらには造形芸術における研究指導能力を養うことを目的として、カリキュラムを編成する。
- ・「造形芸術特論」において、博士後期課程における研究を遂行するために、造形芸術をめぐる多様な研究事例をもとに、研究課題の設定や先行研究の調査など研究計画について指導する。それと並行して、造形芸術専攻の三研究領域に対応する「作品制作研究Ⅰ・Ⅱ」「環境形成研究Ⅰ・Ⅱ」「美術理論研究Ⅰ・Ⅱ」において、自らの制作活動や研究活動を専門の教員の指導の下に深め、展開していく。「総合研究Ⅰ・Ⅱ」では、自身の研究成果についてアカデミックな視点から総合的に指導を受けながら、理論の構築を行い、最終目標として博士論文の完成を目指す。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

造形研究科 修士課程

- ・修士課程に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ修士作品または修士論文の審査および最終試験に合格することが学位授与の要件である。
- ・具体的な学位授与の方針は、各コースのディプロマ・ポリシーによる。

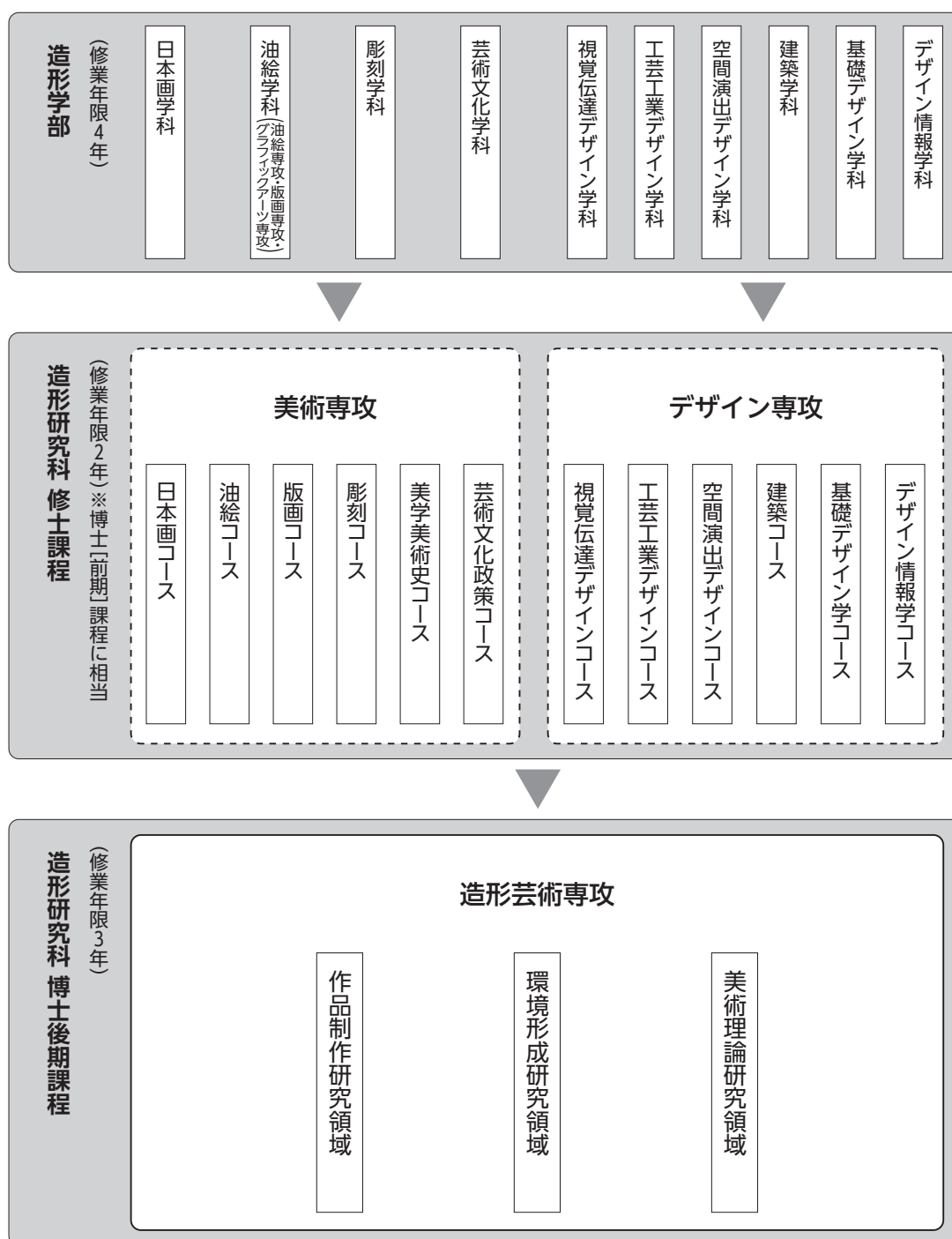
造形研究科 博士後期課程

- ・博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ所定の年限内に博士論文の審査及び最終試験に合格することが学位授与の要件である。
- ・上記の要件に加え、当該研究領域において独創性がありその領域の水準の引き上げに資する可能性があるものとして博士論文が認定された場合に博士の学位を授与する。

大学院の沿革

1962（昭和 37）年	武蔵野美術大学設置
1966（昭和 41）年	造形学部造形専攻科（一年制）開設（1973 年廃止）
1972（昭和 47）年	大学院設置認可申請（翌年 3 月認可）
1973（昭和 48）年	大学院造形研究科（修士課程・二年制）設置し、同美術専攻に日本画コース、油絵コース、彫刻コース、同デザイン専攻に商業デザインコース、工芸工業デザインコース、芸能デザインコース、建築コース、基礎デザインコースを開設
1980（昭和 55）年	大学院造形研究科デザイン専攻商業デザインコースを視覚伝達デザインコースと改称
1985（昭和 60）年	大学院造形研究科デザイン専攻芸能デザインコースを空間演出デザインコースと改称
1987（昭和 62）年	大学院造形研究科美術専攻に版画コースを開設
1988（昭和 63）年	大学院造形研究科美術専攻に造形学コースを開設
1991（平成 3）年	大学院規則と学位規則を改正、修士課程修了者の学位を「芸術学修士」から「修士（造形）」とする
1994（平成 6）年	大学院造形研究科デザイン専攻に映像コースを開設
1996（平成 8）年	大学院造形研究科デザイン専攻基礎デザインコースが、基礎デザイン学コースと改称
2003（平成 15）年	大学院造形研究科美術専攻に芸術文化政策コース、デザイン専攻にデザイン情報学コースを開設
2004（平成 16）年	大学院造形研究科博士後期課程（博士課程・三年制）を設置し、造形芸術専攻に作品制作研究領域、環境形成研究領域、美術理論研究領域を開設
2005（平成 17）年	博士後期課程課程長に滝沢具幸が就任
2006（平成 18）年	大学院造形研究科デザイン専攻に写真コースを開設
2008（平成 20）年	大学院造形研究科美術専攻造形学コースが、造形理論・美術史コースと改称
2009（平成 21）年	武蔵野美術大学 80 周年記念事業（世界美術大学学長サミット等）
2011（平成 23）年	博士後期課程課程長に伊藤誠が就任
2015（平成 27）年	博士後期課程課程長に富松保文が就任
2016（平成 28）年	大学院博士後期課程は博士後期課程運営委員会による運営体制が確立してきたため、博士後期課程課程長を廃止
2019（平成 31）年	大学院造形構想研究科（修士課程・二年制）設置し、同造形構想専攻にクリエイティブリーダーシップコース、映像・写真コースを開設 大学院造形構想研究科（修士課程・二年制）造形構想専攻を開設（クリエイティブリーダーシップコースを設置し、造形研究科デザイン専攻より映像・写真コースを移設）
2020（令和 2）年	大学院造形研究科美術専攻造形理論・美術史コースが美学美術史コースに改称 大学院造形構想研究科が 2020 年度文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）に認定
2021（令和 3）年	大学院造形構想研究科に博士後期課程を開設

大学院の構成



2025年度 学事予定

年月	日	授業週	集中授業 (期)	曜日時限科目 (週2コマ)	市ヶ谷 (ターム)	学事予定	備考
2025年	24 - 29						
4月	1 - 5					入学式 4/2(水) ↑オリエンテーション週間↑	
	7 - 12	1		1		前期授業開始 4/10(木) ↓履修登録期間 4/4(金)～4/17(木) (予定) ↓	
	14 - 19	2		1・2			
	21 - 26	3	1	2・3			
5月	28 - 3	4		3・4	1		4/29(火) 昭和の日は授業日
	5 - 10	5		4・5	(4/14～6/7)		
	12 - 17	6		5・6		前期履修取消期間 5/12(月)～17(土) (予定)	
	19 - 24	7	2	6・7			
	26 - 31	8		7・8			
6月	2 - 7	9		8・9		教育実習 ↑	
	9 - 14	10		9・10			
	16 - 21	11	3	10・11	2		オープンキャンパス 6/21(土)・22(日) (市ヶ谷)
	23 - 28	12		11・12			
7月	30 - 5	13		12・13	(6/9～8/2)		
	7 - 12	14		13			オープンキャンパス 7/12(土)・13(日) (鷹の台)
	14 - 19	15				前期授業終了(文化総合科目) 7/16(水) ↑	
	21 - 26	16				前期補講・講義科目定期試験週間 7/17(木)～23(水) ↓	7/21(月) 海の日(鷹の台)は補講・試験日(市ヶ谷は授業日)
8月	28 - 2	17					
	4 - 9						
	11 - 16					夏季休業 鷹の台：7/24(木)～8/30(土) 市ヶ谷：8/4(月)～8/30(土)	
	18 - 23						
	25 - 30					後期修正履修登録 8/28(木)・29(金) (予定)	
9月	1 - 6	18		14		後期授業開始 9/1(月)	
	8 - 13	19	4	15	3		
	15 - 20	20		16	(9/1～10/18)		9/15(月) 敬老の日は授業日
	22 - 27	21		17			9/23(火) 秋分の日(鷹の台)は授業日
10月	29 - 4	22		18		後期履修取消期間 9/29(月)～10/4(土) (予定)	
	6 - 11	23	5	19			
	13 - 18	24		20			10/13(月) スポーツの日は授業日
	20 - 25					芸術祭活動 準備 10/20(月)～23(木) 祭典 10/24(金)～26(日) 整理 10/27(月)～29(水) 休講 10/30(木)～11/1(土)	
11月	27 - 1						10/30(木) 創立記念日
	3 - 8	25		21	4		11/3(月) 文化の日は授業日
	10 - 15	26	6	22			
	17 - 22	27		23			
	24 - 29	28		24	(11/3～)		11/24(月) 振替休日は授業日
12月	1 - 6	29	7	25			
	8 - 13	30		26		後期授業終了(文化総合科目) 12/13(土)	
	15 - 20	31				後期補講・講義科目定期試験週間 12/15(月)～20(土)	
2026年	22 - 27						
1月	29 - 3					冬季休業 12/22(月)～1/6(火)	1/1(木) 元旦
	5 - 10	32			(1/7～1/13)		
	12 - 17	33				卒業・修了制作展(鷹の台キャンパス) 1/15(木)～18(日)	1/12(月) 成人の日は卒業制作・論文の提出・採点日
	19 - 24	34					
	26 - 31	35				卒業・修了制作展(市ヶ谷キャンパス) 1/30(金)～2/1(日)	
2月	2 - 7						
	9 - 14						
	16 - 21						
	23 - 28						
3月	2 - 7						
	9 - 14					3/13(金) 卒業式	
	16 - 21						
	23 - 28						
	30 - 31						

教育課程および履修方法

●修了要件

[修士課程]

2年以上在学し、各コース別の必修科目 20 単位および各コース共通の科目から 10 単位以上、合計 30 単位以上を修得し、かつ修士作品または修士論文の審査および最終試験に合格することにより修了となります。

[博士後期課程]

3年以上在学し、1 年次および 2 年次に配当された選択科目から 4 単位および各学年に配当された必修科目から 6 単位、合計 10 単位以上を修得し、かつ博士論文の審査および最終試験に合格することにより修了となります。

●修士作品または修士論文等の審査基準

1. 学位論文等の提出及び学位授与の申請

修士の学位を受けようとする者は、指導教員を通じて修士作品又は修士論文を提出します。

2. 学位論文等の提出及び学位授与の申請の要件

修士論文等は、修士課程に 1 年以上在学し、所定の授業科目について、2 年次修了時まで 30 単位以上を修得する見込みの者でなければ、提出することができません。

3. 学位論文等の審査

修士論文を審査するため修士論文等ごとに審査委員会を設けます。

4. 審査委員会

修士論文等の審査にあたっては、提出された修士論文等の内容に応じた専門分野の指導教員及び研究科委員会において選出された関連分野の教員 2 名以上で審査委員会を組織します。

5. 課程修了及び授与資格の認定

研究科委員会は、修得単位並びに審査委員会からの学位論文等の審査及び最終試験の結果報告に基づき、課程修了の認定について審議のうえ、合格又は不合格を議決します。

●履修等

1. 履修登録

履修登録は別に配付される「学生用システム操作ガイド（履修登録マニュアル）」を熟読し、所定の期日に手続をする必要があります。

また、履修登録後に LiveCampusU から出力した「履修登録確認票」で、自分が希望した科目が正しく登録されているかを必ず確認してください。

2. 単位認定

他の大学院において修得した単位は、修士課程および博士後期課程を通して 10 単位まで認定することがあります。ただし、本学の博士後期課程にのみ在籍する場合は最大 4 単位までの認定となります。

●修士課程における研究指導計画

1 年次

- 4 月 指導教員と協議の上、研究テーマの検討、確定
研究能力・手法の育成と習得
研究テーマに関する調査研究／関連領域に関する調査研究
中間報告会、プレゼンテーションの実施
修士論文研究テーマの検討

2 年次

- 4 月 指導教員と協議して修士論文研究テーマの設定
研究テーマに関する調査研究
主査・副査も参加する公開での研究進捗プレゼンテーションの実施等
- 1 月 指導教員の許可を得て修士論文・作品提出／以後審査と最終試験
修了制作展、学外展示、公表
- 3 月 学位認定

●授業

造形研究科の授業は、原則、次のように行われます。

1. 授業時間

講義科目	第1時限 9:00～10:30 第2時限 10:40～12:10 第3時限 13:20～14:50 第4時限 15:00～16:30 第5時限 16:40～18:10
演習・実技科目	第1・2時限 9:00～12:10 第3・4時限 13:20～16:30

2. 休講

講義科目の授業が休講となる場合は、下記の方法で連絡しますので、必ず確認してください。

- ・電子掲示板（1号館第1講義室入口左）
- ・LiveCampusU ポータルサイトの学内リンク「休講情報」

気象警報に伴う休講

気象庁より、気象警報が発表された場合は次の通りとします。（造形学部通信教育課程を除く）

なお、どの規定に該当しても、大学 Web サイト、LiveCampusU で確認するようにしてください。

対象となる気象警報（注意報を除く）

- 【警報】「暴風」「暴風雪」「大雪警報」
- 【特別警報】「大雨」「暴風」「暴風雪」「大雪」

対象地域および気象警報発表時における授業の取り扱い

鷹の台キャンパスの場合：多摩北部（小平市）

- ・午前6時00分において発表されている時は、1時限及び2時限を休講等とする。
- ・午前9時00分において発表されている時は、3時限、4時限及び5時限を休講等とする。
- ・その他、午前9時00分より後に発表された場合は、学長の判断により決定する。

市ヶ谷キャンパスの場合：東京23区西部（新宿区）

- ・午前7時00分において発表されている時は、1時限及び2時限を休講等とする。
- ・午前11時00分において発表されている時は、3時限及び4時限を休講等とする。
- ・午後3時00分において発表されている時は、5時限、6時限及び7時限を休講等とする。
- ・その他、午後3時00分より後に発表された場合は、学長の判断により決定する。

※オンライン授業（リアルタイム・オンデマンド）は、原則として気象警報による休講の対象外です。

3. 欠席

病気その他やむを得ない理由で欠席する場合は、次の通り手続きしてください。ただし、欠席を出席扱いとするものではありません。

- ・1週間以内の欠席

口頭で、担当教員または所属研究室、開設研究室に申し出てください。

- ・1週間を超える欠席

口頭で担当教員または所属研究室、開設研究室に申し出た上で、「欠席の理由を証明する書類（医師の診断書、病院の領収書等）」を教務チームへ持参してください。窓口にて「欠席届（教務チームにて配付）」の記入が必要です。

4. 公欠

以下の場合は、公欠扱いとし、全体の授業回数に含めません。事前に教務チームへ申し出てください。

- ・裁判員に選任
- ・大学が認める学校感染症に罹患（本人または同居人が法定伝染病に罹るか、その疑いがあると診断された時は、直ちに保健室に連絡してください。医師より「治癒証明書（大学ホームページからダウンロードできます）」を受け、保健室に提出し、大学の承認を受けるまで登校することはできません。）

※冠婚葬祭は公欠扱いとはしません。

●成績評価

各授業科目については一定の基準で履修した上で、試験や授業における評価に合格することによって単位が与えられます。主な成績評価の方法は以下のとおりです。

各授業科目における評価方法の詳細はシラバスを確認してください。

1. 講義科目の成績評価

定期試験（筆記試験・レポート試験）

講義科目の筆記試験・レポート試験の有無および詳細については各授業内で発表されますので、その指示に従ってください。

なおレポート試験において履修者以外の者が代理でレポートを作成した場合、または他の者が作成した文章を自ら作成したレポートとして提出した場合は不正行為とみなします。

授業内評価

定期試験を課さず、授業内の課題や小テスト、発表等によって総合的に評価を行います。

2. 実技実習科目の成績評価

実技科目の成績評価は、定められた単位数に応じて課される平常の課題作品・論文のすべてが対象になります。成績評価に当たっては、出席回数が授業回数の3分の2以上になっていることや、平常の学習状況も参考にされます。（出席回数については、指導研究室により別途条件が設定されている場合があります。）

一つの授業科目で未提出課題作品・論文が1点でもあると、その科目の単位を認定できなくなりますので、課された作品・論文はすべて指定された日時に必ず提出してください。提出期限に遅れた作品・論文の提出は原則として認められません。

3. 評価基準

成績は素点100点を満点とし、60点以上を合格とする秀、優、良、可、不可の5段階で評価します。評価基準は次の通りです。

評価	素点	評価基準
秀	90点以上	当該科目の到達目標を大きく上回り、発展させている
優	89～80点	当該科目の到達目標を上回っている
良	79～70点	当該科目の到達目標を達成している
可	69～60点	当該科目の到達目標に最低限達している
不可	59点以下	当該科目の到達目標に達していない

●試験

1. 定期試験

通年科目（前期と後期を通して開設されている科目）：原則として後期末に実施。

半期開設科目（前期または後期に開設されている科目）：それぞれ前期末または後期末に実施。

2. 定期試験の受験資格

講義科目の定期試験を受けるためには、次の条件を満たすことが必要です。

- ①受験する科目の履修登録を行っていること（LiveCampusUの履修登録確認表に科目が載っていること）。
- ②受験する授業科目の出欠状況が3分の2以上出席していること。
- ③授業科目毎に担当教員が定めた条件がある場合はその条件を満たしていること。

3. 試験実施科目の発表

試験実施の有無および詳細については各授業内で発表されますので、その指示に従ってください。

4. 欠席および追試験

定期試験を病気その他やむを得ない理由で欠席した場合は、追試験が認められることがあります。欠席することが分かった段階で教務チームに連絡または窓口に来課し、必要な手続を行ってください。追試受験料は1科目につき500円となります。また欠席の理由を証明する書類（医師の診断書等）が必要になります。なお試験日の勘違い、失念、寝坊、証明書のない体調不良による欠席は追試験の対象にはなりません。

5. 修了年次生の再試験

修士課程の修了年次生（2年生）のうち、修了要件が満たせなかった者で、以下の基準に該当する場合は、再試験を受けることができます。

- ①各コース開設の実技実習科目の単位を規定どおりに修得していること。
- ②当該科目の単位を修得することによって修了の要件を満たすこと。
- ③未修得科目が2科目、8単位以内で、成績が「不可」であること。「未受験」や「対象外」は対象としない。

武蔵野美術大学試験実施要領

(目的)

第1条 この要領は、武蔵野美術大学（造形学部通信教育課程を除く。以下「本学」という。）において行う本学学則第35条に定める試験（本学大学院を含む。以下「試験」という。）について定める。

(定義)

第2条 この要領において次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 筆記試験 会場において筆記により行う試験
- (2) レポート試験 あらかじめ提示された課題について記されたレポートを提出する試験

(試験期間)

第3条 試験期間は年度ごとの学事予定に従って前期及び後期の最終の1週間を指定する。ただし、本学学則第12条第2号に定める休日が当該週間にある場合は適当な日数を加える。

- 2 筆記試験は当該試験期間の通常の授業を行う曜日及び時限に行う。ただし、前項但書きによる場合及び特に必要な場合は別の曜日及び時限を指定することができる。
- 3 レポート試験のレポートを回収する日時は試験期間のうちから適当な日時を指定する。
- 4 前各項にかかわらず授業科目の必要から試験期間以外の日時において筆記試験又はレポート試験を行うことができる。

(受験資格)

第4条 試験を受験しようとする者は次の各号のすべてを満たさなくてはならない。

- (1) 受験する授業科目の履修登録を行っていること
- (2) 受験する授業科目の授業の3分の2以上を出席していること
- (3) 授業科目ごとに担当教員が定めた条件がある場合はその条件を満たしていること

(試験の告知)

第5条 試験期間は、試験期間の初日の1月前までに掲示その他の方法により告知する。

- 2 レポート試験の回収日時、授業科目ごとの筆記試験の実施日時及び場所並びにレポート試験の課題及び形式は試験期間の初日の10日前までに掲示その他の方法により告知する。

(試験監督)

第6条 筆記試験の試験監督は授業科目の担当教員が行い、不可能な場合は本学の教員又は職員が行う。

- 2 試験監督は当該授業科目の試験の実施全般を監督し、受験者の出欠及び解答用紙の回収について教務チームに報告する。
- 3 受験者が多数に及ぶとき等に、本学の助手、教務補助員その他のうちから試験監督補助者を指定する。

(入退室)

第7条 筆記試験において試験開始時刻より20分を超えて遅刻した場合は受験資格を失う。

- 2 筆記試験においては試験開始時刻より30分を超えるまでは、疾病その他試験監督が認めた場合を除いて、退場することはできない。

(不正)

第8条 筆記試験において次の各号の一に該当する行為を行つた場合は不正とする。

- (1) 試験を行つているときに他の学生の解答を覗き見又は他の学生に見せること
- (2) 試験を行つているときに試験監督の許可なく発声、移動、用具の貸借又は試験の妨害を行うこと
- (3) 履修者以外の者が受験すること
- (4) 許可された物品及び機材以外のものを使用すること
- (5) 解答用紙を持ち帰ること
- (6) その他試験監督の指示に従わないこと
- 2 レポート試験においては履修者以外の者が代理してレポートを作成し、又は他の者が作成した文章を自ら作成したレポートとして提出する場合は不正とする。

(不正への対応)

第9条 試験監督、試験監督補助者及び試験の採点に当たる担当教員は不正を防止するために注意し、不正の疑義のある行為について教務チームに報告しなければならない。

- 2 試験監督は不正の疑義のある者に対して証拠の提出及び会場からの退場を命じることができる。
- 3 不正の報告があつた場合、教務チームはすみやかに学長に報告しなければならない。
- 4 不正を行つた者については、当該試験期間のすべての試験を無効とし、本学学則第54条又は本学大学院規則第42条により懲戒する。ただし、前条第1項第3号については依頼した者も不正を行つたものとみなす。

(追試験)

第10条 疾病等の事由により受験できなかつた受験者が別に定める手続きにより申し出たとき、授業科目を担当する教員が認めた場合は追試験を行うことができる。

- 2 追試験の不合格及び未受験の場合、さらに追試験を行うことはできない。

(再試験)

第11条 最終学年に在学する学生が卒業又は修了のための所要単位が満たないとき、別に定める手続き及び条件により再試験を行うことができる。

- 2 再試験の不合格及び未受験の場合、さらに再試験を行うことはできない。

(改廃)

第12条 この要領の改廃は、造形学部教授会及び研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この要領は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

●単位の授与

秀・優・良・可の評価が得られた科目については、合格とし、その科目について定められた単位が授与されます。単位を修得した科目を再履修することはできません。

試験を受験しなかった場合は「未受験」、出席が足りない場合は「対象外」となり、いずれも不合格となります。不合格科目は次年度以降に再履修することができます。

●成績の通知

1. 学生への通知 (Web 成績閲覧)

LiveCampusU で、8 月と 3 月に「成績通知書」の開示します。

2. 保証人への通知

年 1 回 (3 月)、LiveCampusU に登録された保証人住所宛てに郵送しますので、住所が変わった場合等は必ず教務チーム窓口に出して、手続きしてください。

●進級・修了

1. 進級

造形研究科では、その年度に修得した単位数にかかわらず上位学年に進級することになります。仮進級や留年制度はありません。

2. 修了

「修了要件」(P.9) を満たした者には「学位記」が与えられ、「修士 (造形)」または「博士 (造形)」の学位が授与されます。

3. 修了延期 (学籍継続)

①必修科目が未修得の場合：修延 (必修)

留年の制度がないため、学籍上は「平常」となりますが、修了は 1 年間延期されます。ただし、在学期間の 4 年間に修得できない場合は退学となります。修了が延期となった場合は、未修得科目のみを再履修することになります。

②修了制作・論文が未修得の場合：修延 (修了制作)

学籍上は「平常」となりますが、修了は延期されます。ただし、在学期間の 4 年間に修了できない場合は退学となります。延期の期間は原則として 1 年間としますが、当該研究室の判断により半年間 (9 月) で修了する場合があります。

③共通専門科目が未修得の場合：修延 (共通)

学籍継続となり、学籍は「修了延期」となります。修了は半年または 1 年間延期され、その間に当該科目を修得しなくてはなりません。1 年間を経過して修得し得なかった場合は退学となります。

4. 在学年数

修士課程は 2 年以上 4 年以内、博士後期課程は 3 年以上 6 年以内に修了に必要な単位を修得しなければなりません。これを超える場合は退学となります。ただし、休学期間は在学年数に含まれません。

5. 単位取得退学

博士後期課程において、所定の単位を取得したが論文審査に合格していない場合、願い出 (単位取得退学願) により単位取得退学となります。なお、単位取得退学後、5 年以内に博士論文の審査および最終試験に合格することにより、「博士 (造形)」の学位が授与されます。

●留学

本大学院の協定または認定する外国の大学院等へ留学を希望する場合は、学長に願い出て留学をすることができます。留学が許可された場合は、以下の適用が受けられます。

ただし、留学の許可を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。

1. 留学期間のうち、1 年を限度として本大学院規則に定められた修業年限または在学期間に算入することができる。
2. 留学先の大学院等で履修した授業科目の修得単位のうち、適当と認めた単位については、修士課程および博士後期課程を通じて 10 単位を上限として、本大学院における授業科目の履修により修得した単位として認定することがある。ただし、本大学院の博士後期課程にのみ在籍する場合は、最大 4 単位までの認定となる。

●休学・復学

病気その他やむを得ない理由によって、2 カ月以上出席できない場合は、学長に願い出て当該年度末 (3 月末日) まで休学することができます。この他に、学長が病気その他の理由で修学の継続が適当でないと判断したときは、願い出を待たずに休学を命ずることがあります。

申請方法・詳細は以下 web ページを確認してください。

武蔵野美術大学 web サイト > 学生生活 > 授業・試験・学籍 > 休学・退学・住所変更などの手続



●退学

病気その他やむを得ない理由によって、退学しようとするときは、学長に願い出なければなりません。

この他に、本人からの願出がなくても、次のような場合には教授会の議を経て学長は退学を命ずることがあります。

1. 休学の期間を除いて、学部で 8 年間 (2 年次編入学をした者については 6 年間、3 年次編入学をしたものについては 4 年間)、修士課程の場合は 4 年間、博士後期課程の場合は 6 年間在学しても卒業できない場合。
2. 休学の期間を過ぎても復学の願出がない場合。
3. 授業料を滞納して、督促を受けても納入しない場合。ただし、退学決定後一定期間内に授業料の納入があった場合には、退学の決定が取消されることがある。
4. 死亡、または 2 年以上行方がわからない場合。
5. 学部において同学年で二度留年判定を受けた場合 (休学期間は除く。)
6. 卒業延期、修了延期 (修了制作・論文が未修得の場合および共通専門科目が未修得の場合) の判定後、1 年を経過しても卒業・修了ができなかった場合。
7. 学生の本分に反する行為により懲戒に付された場合。

申請方法・詳細は以下 web ページを確認してください。

武蔵野美術大学 web サイト > 学生生活 > 授業・試験・学籍 > 休学・退学・住所変更などの手続



個人情報の取り扱いについて

本学では、「学校法人武蔵野美術大学個人情報保護基本方針（プライバシーポリシー）」に基き、次の通り取り扱います。

1. 教務チーム管理書類および電子データ

①学籍情報	}	入学手続き時
②住民票		
③誓約書・保証書		
④写真データ		
⑤卒業証明書		
⑥学生証	}	入学後管理
⑦成績通知書		
⑧休学・退学届および関係書類（診断書等）	}	発生時提出
⑨保証人住所変更届		
⑩保証人変更届		
⑪学費請求先変更届		
⑫改姓名届および関係書類		
⑬欠席届および関係書類（診断書等）	}	在籍時管理
⑭学籍異動情報		
⑮保証人情報		
⑯住所情報	}	卒業後管理
⑰履修・成績情報		
⑱卒業情報		

2. 関係書類の取扱い

- ①学籍情報は、教務チームによる永久保管。
- ②住民票、誓約書・保証書は、5年間保管の後、処分。

3. 関係書類及び電子データの用途

- ①関係書類は、学籍情報の電子データ化及び学生証カード作成の資料として使用。
- ②成績通知書の保証人への送付。
- ③重要書類（判定通知書等）の本人または保証人への送付。
- ④業務上必要となる本人または保証人への通知、連絡。
- ⑤本学事務局、研究室、校友会からの業務上必要となる照会。
- ⑥その他学生本人の閲覧等、必要と認められる場合の使用。

4. 個人情報保護への取組

- ①関係書類は、教務チーム専用倉庫において施錠管理。
- ②システムは、パスワードによるセキュリティー管理（不正アクセス防止）を徹底。
- ③学外への持ち出しは、以下の例外の取扱いを除き、禁止。
学籍情報は、学籍情報の電子データ化のため外部業者に委託、作業終了後、速やかに返却させる。
学籍情報写真データは、学生証カード作成のため外部業者に委託、作業終了後、速やかに返却させる。
- ④外部委託業者については、委託業者によるデータ加工、改竄、複写、漏洩の禁止等について、機密保持のための契約を締結。
- ⑤関係書類の職員の閲覧は、原則教務チーム専用倉庫内に限定。
- ⑥学生本人の学籍簿閲覧は、学生証による本人照合を必須とし、窓口受付時間内に教務チームにて可能とする。

注意事項

本人照合について

個人情報保護法の施行により、学内での各種手続でも学生証(ICカード)による本人照合が必須となります。不携帯の場合は如何なる理由でも取り扱いができなくなりますので、常時携帯するよう注意してください。そのため、本人照合ができない電話による問い合わせに対しては、一切の回答ができませんので注意してください。

2025～2024 年度入学生

造形研究科修士課程／単位表

〈美術専攻〉

日本画コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	日本画研究Ⅰ	8	日本画研究Ⅲ	8
		日本画研究Ⅱ	4		

油絵コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	絵画研究Ⅰ	8	絵画研究Ⅲ	8
		絵画研究Ⅱ	4		

版画コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	版画研究Ⅰ	8	版画研究Ⅲ	8
		版画研究Ⅱ	4		

彫刻コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	彫刻研究Ⅰ	8	彫刻研究Ⅲ	8
		彫刻研究Ⅱ	4		

美学美術史コース ※造形学演習Ⅰは2025年度開講しない。

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	造形学演習Ⅰ	6	造形学演習Ⅱ	6
	選択必修	東洋美術史研究	2	8	
		東洋美術史演習	2		
		西洋美術史研究	2		
		工芸史演習	2		
		デザイン史研究	2		
		美学芸術学研究	2		
		近現代美術史演習	2		
		現代建築論	2		

芸術文化政策コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	芸術文化政策特論Ⅰ	4	芸術文化政策特論Ⅱ	4
		芸術文化政策演習Ⅰ	6	芸術文化政策演習Ⅱ	6

芸術文化学コース（2025 年度入学生）

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	芸術文化学特論Ⅰ	4	芸術文化学特論Ⅱ	4
		芸術文化学演習Ⅰ	6	芸術文化学演習Ⅱ	6

〈デザイン専攻〉

視覚伝達デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	視覚情報論Ⅰ	4	視覚情報論Ⅱ	4
		視覚伝達デザイン演習Ⅰ	6	視覚伝達デザイン演習Ⅱ	6

工芸工業デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	プロダクトデザイン特論Ⅰ	4	プロダクトデザイン特論Ⅱ	4
		プロダクトデザイン演習Ⅰ	6	プロダクトデザイン演習Ⅱ	6

空間演出デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	空間演出デザイン特論Ⅰ	4	空間演出デザイン特論Ⅱ	4
		空間演出デザイン演習Ⅰ	6	空間演出デザイン演習Ⅱ	6

建築コース ※建築計画特論、建築構法特論は2025年度開講しない。

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	建築デザイン特論Ⅰ a	2	建築デザイン特論Ⅱ a	2
		建築デザイン特論Ⅰ b	2	建築デザイン特論Ⅱ b	2
	選択必修	建築設計演習Ⅰ a	2	建築設計演習Ⅱ	4
		建築設計演習Ⅰ b	2	建築設計実習Ⅱ	4
		建築設計実習Ⅰ	4	建築デザイン演習Ⅱ	4
専門Ⅱ類	選択	建築設計演習Ⅰ	4	建築設計演習Ⅲ	4
				建築設計実習Ⅲ	4
				建築デザイン演習Ⅲ	4
		建築設計インターンシップⅠ	4	建築設計特論	2
		建築設計インターンシップⅡ	4	建築構法特論※	2
専門Ⅱ類	選択	建築設計インターンシップⅢ	4	建築設備特論	2
				建築計画特論※	2

基礎デザイン学コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	デザイン論特論Ⅰ	4	デザイン論特論Ⅱ	4
		デザイン理論演習Ⅰ	6	デザイン理論演習Ⅱ	6

デザイン情報学コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	デザイン情報学特論Ⅰ A	2	デザイン情報学特論Ⅱ A	2
		デザイン情報学特論Ⅰ B	2	デザイン情報学特論Ⅱ B	2
		デザイン情報学統合演習Ⅰ	6	デザイン情報学統合演習Ⅱ	6

授業科目・担当教員一覧

- ※印科目については、当該コースの必修科目ですが、他のコースの学生も共通科目として履修することができます。
- 単位の数字に（ ）がついているものは選択科目です。

美術専攻				
コース	授業科目	単位数	担当教員	
日本画 コース	日本画研究Ⅰ	8	間島秀徳	教授
	日本画研究Ⅱ	4	尾長良範	教授
	日本画研究Ⅲ	8	岩田壮平	教授
			室井佳世	教授
			熊澤未来子	准教授
			北澤恵昭	客員教授
			日高理恵子	客員教授
			國司華子	客員教授
			栗林 隆	客員教授
			因幡都頼	講師
			木村真光	講師
			木村了子	講師
			小金沢 智	講師
			椎野晃史	講師
			武田裕子	講師
			谷保玲奈	講師
油絵 コース	絵画研究Ⅰ	8	赤塚祐二	教授
	絵画研究Ⅱ	4	樺山祐和	教授
	絵画研究Ⅲ	8	小尾 修	教授
			小林孝亘	教授
			袴田京太朗	教授
			丸山直文	教授
			水上泰財	教授
			諏訪 敦	教授
			吉川民仁	教授
			町田久美	教授
			小林耕平	教授
			金田実生	客員教授
			長島有里枝	客員教授
			津上みゆき	客員教授
			土方明司	客員教授
			大川心平	講師
版画 コース	版画研究Ⅰ	8	神村 恵	講師
	版画研究Ⅱ	4	衣川明子	講師
	版画研究Ⅲ	8	後藤温子	講師
			坂本龍幸	講師
			高橋大輔	講師
			竹内奏絵	講師
			竹内 一	講師
			徳永陶子	講師
			中尾直貴	講師
			松井えり菜	講師
			松尾勘太	講師
			横原泰介	講師
			森 千裕	講師
			渡辺えつこ	講師
			遠藤竜太	教授
			高浜利也	教授
彫刻 コース	彫刻研究Ⅰ	8	元田久治	教授
	彫刻研究Ⅱ	4	いとう瞳	教授
	彫刻研究Ⅲ	8	緒賀岳志	客員教授
			亀山達矢	客員教授
			伊藤 誠	教授
			富井大裕	教授
			保井智貴	教授
			三沢厚彦	教授
			岡崎乾二郎	客員教授
			AKI INOMATA	客員教授
			棚田康司	客員教授
			奥 健夫	教授
			木田拓也	教授
			北澤洋子	教授
			玉蟲敏子	教授
			前田恭二	教授
美学美術史 コース			村上博哉	教授
			沢山 遼	准教授
			岡山理香	講師
			田中正之	客員教授
			松原 茂	客員教授
			明珍素也	客員教授
	※西洋美術史研究	(2)		
	※東洋美術史研究	(2)		
	※東洋美術史演習	(2)		
	※近現代美術史演習	(2)		
	※工芸史演習	(2)		
	※デザイン史研究	(2)		
	※現代建築論	(2)		
	※美学芸術学研究	(2)		
	造形学演習Ⅰ	6		
	造形学演習Ⅱ	6		
芸術文化政策 コース	芸術文化政策特論Ⅰ	4	古賀稔章	准教授
	芸術文化政策演習Ⅰ	6	是枝 開	教授
	芸術文化政策特論Ⅱ	4	佐々木一晋	准教授
	芸術文化政策演習Ⅱ	6	杉浦幸子	教授
			春原史寛	教授
			米徳信一	教授
			竹内草子	講師
			本間桃世	講師
			松浦 昇	講師
			森 啓輔	講師
	芸術文化学特論Ⅰ	4		
	芸術文化学演習Ⅰ	6		
	芸術文化学特論Ⅱ	4		
	芸術文化学演習Ⅱ	6		
芸術文化学 コース				

*造形学演習Ⅰは2025年度開講しない。

デザイン専攻				
コース	授業科目	単位数	担当教員	
視覚伝達 デザイン コース	※視覚情報論Ⅰ	4	寺山祐策	教授
	※視覚伝達デザイン演習Ⅰ	6	キュー・ジュリヤ	教授
	視覚情報論Ⅱ	4	齋藤啓子	教授
	視覚伝達デザイン演習Ⅱ	6	白井敬尚	教授
工芸工業 デザイン コース			古堅真彦	教授
			石塚英樹	教授
			中野豪雄	教授
			北崎允子	教授
			後藤映則	准教授
			大田暁雄	准教授
			沢田耕一	教授
			堀口裕美	講師
			北條みぎわ	講師
	※プロダクトデザイン特論Ⅰ	4	伊藤真一	教授
	プロダクトデザイン演習Ⅰ	6	稲田真一	教授
	プロダクトデザイン特論Ⅱ	4	大村俊二	教授
	プロダクトデザイン演習Ⅱ	6	鈴木 洋	教授
			高橋理子	教授
			田中桂太	教授
			中原俊三郎	教授
空間演出 デザイン コース			西川 聡	教授
			山中一宏	教授
			熊野 亘	准教授
建築 コース	※空間演出デザイン特論Ⅰ	4	津村耕佑	教授
	空間演出デザイン演習Ⅰ	6	太田雅公	教授
	空間演出デザイン特論Ⅱ	4	池田ともゆき	教授
	空間演出デザイン演習Ⅱ	6	五十嵐久枝	教授
			片山正通	教授
			鈴木康広	教授
			パトリック・ライアン	教授
			安藤北斗	准教授
			北川陽史	准教授
	建築設計インターンシップⅠ	(4)	小西泰孝	教授
	建築設計インターンシップⅡ	(4)	國廣純子	教授
	建築設計インターンシップⅢ	(4)	高橋晶子	教授
	建築設計実習Ⅰ	(4)	布施 茂	教授
	建築設計実習Ⅱ	(4)	菊地 宏	教授
	建築設計実習Ⅲ	(4)	持田正憲	教授
	建築デザイン演習Ⅰ	(4)	長谷川浩己	教授
*建築計画特論、建築構法特論は2025年度開講しない。	建築デザイン演習Ⅱ	(4)	小松宏誠	准教授
	建築デザイン演習Ⅲ	(4)	比嘉武彦	客員教授
	建築設計演習Ⅰa	(2)	大島芳彦	客員教授
	建築設計演習Ⅰb	(2)	川村政治	講師
	建築設計演習Ⅱ	(4)	河野有梧	講師
	建築設計演習Ⅲ	(4)		
	建築デザイン特論Ⅰa	2		
	建築デザイン特論Ⅰb	2		
	建築デザイン特論Ⅱa	2		
	建築デザイン特論Ⅱb	2		
	建築計画特論	(2)		
	建築設備特論	(2)		
	建築設計特論	(2)		
	建築構法特論	(2)		

デザイン専攻

コース	授業科目	単位数	担当教員
基礎 デザイン学 コース	※デザイン論特論Ⅰ	4	原 研哉 教授
	デザイン理論演習Ⅰ	6	板東孝明 教授
	デザイン論特論Ⅱ	4	小林昭世 教授
	デザイン理論演習Ⅱ	6	三澤 遥 准教授 菱川勢一 教授 後藤 武 講師 田中良治 教授 清水恒平 教授 畑 一成 講師
デザイン 情報学コース	※デザイン情報学特論Ⅰ A	2	白石 学 教授
	※デザイン情報学特論Ⅰ B	2	佐藤淳一 教授
	デザイン情報学特論Ⅱ A	2	高山 穰 教授
	デザイン情報学特論Ⅱ B	2	新保韻香 教授
	デザイン情報学統合演習Ⅰ	6	井上尚司 准教授
	デザイン情報学統合演習Ⅱ	6	大石啓明 准教授 瀧本往人 講師 Jag Yamamoto 講師

共通科目

	授業科目	単位数
各コース 共通科目	造形民俗学研究	(4)
	西洋美術史研究	(4)
	日本美術史研究	(4)
	東洋美術史演習	(4)
	現代芸術研究	(4)
	近現代美術史演習	(4)
	デザイン史研究	(4)
	工芸史演習	(4)
	現代建築論	(4)
	東洋美術史研究	(4)
	美学芸術学研究	(4)
	日本近現代美術史研究	(4)
	ユング芸術心理学研究	(4)
	芸術情報処理研究	(4)
	環境生態学特論	(2)
	映像芸術論	(4)
	作家・作品研究	(4)
	美術教育研究	(4)
	教育学研究	(4)
	日本語Ⅰ	(2)
他コース 履修可能 科目	視覚情報論Ⅰ	(4)
	視覚伝達デザイン演習Ⅰ	(6)
	プロダクトデザイン特論Ⅰ	(4)
	空間演出デザイン特論Ⅰ	(4)
	デザイン論特論Ⅰ	(4)
	デザイン情報学特論Ⅰ A	(2)
	デザイン情報学特論Ⅰ B	(2)
	デザイン情報学特論Ⅱ A	(2)

○芸術情報処理研究、視覚情報論Ⅰ、視覚伝達デザイン演習Ⅰ、造形民俗学研究、ユング芸術心理学研究は2025年度開講しない。

美術専攻

日本画コース

理念・教育目標

造形学部では日本画の制作をとおして、造形や美術史、素材の研究などから表現を深めてきましたが、大学院ではより解放された視点から日本画を捉えなおして自己の表現に向き合います。

日本画という言葉自体、絵画と国という概念を含んでいることから文化的な拠り所を意識することに繋がりますが、従来の日本画の価値観を受けとめるだけではなく、日本とは日本画とは何かを考えることや、グローバルな視点に立って現代の芸術として意識し、制作することが重要になってきます。

大学院では、何を考えて造るのか？ どう表現するのか？を問い、発表することの意味などに向き合います。それらの問いを論理的に進めることで表現への意識を深めることができるように考えています。

カリキュラムは各自の自主性をもとに行うことになりますが、展示ゼミや各種の伝統技法に対応したゼミなどを希望に応じて受けることができます。展示ゼミや様々な展覧会、個展などで発表の機会を重ねることで、客観的に自分の作品をみつめ、表現への意識を深めます。

表現に対する「思考」と、制作と発表という「実践」を重ねて社会との関わりの中かで表現者として活動して行くのに必要な専門性を得られるよう、全教員が個別に指導して行きます。

大学院ゼミでは、各指導教員によるゼミが定期的開催され、アトリエでの制作指導以外に、研究発表、フィールドワーク、テーマ別ディスカッション等を行います。

アドミッション・ポリシー

日本画をとおして造形や美術史、素材の研究を行い、自主的に表現の可能性を追求したいという強い意欲を持つ学生を募ります。

カリキュラム・ポリシー

歴史や社会との関わりの中かで自己の表現を論理的に考えることで意識を深め、それに基づいた課題を設定し自主的に取り組みます。

表現への意識を深め、制作、発表を通して表現者として活動して行くために必要な専門性を得られるよう、全教員が個別に指導して行きます。

ディプロマ・ポリシー

本学科では日本独自の文化を背景に現代の多様な価値観の中かで思考し創造できる専門性を持った表現者の育成を目標としています。

学位が授与されるためには以下のことが求められます。

- 表現に対応した技術を持ち、それを十分に深めているか。
- 自己の表現について主体的に取り組み、論理的にプレゼンテーションできるか。
- 歴史や社会との関わりの中かで自己の表現の意味を考えているか。

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 4/17										オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/8 30 28 29 夏季休業 7/24 8/30
1 年		日本画研究Ⅰ																
2 年		日本画研究Ⅲ																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月					
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31			
4期				5期					6期			7期													
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35				
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13				
日本画研究Ⅰ									日本画研究Ⅱ																
修了制作									修了制作																

●祭典 10/24~10/26

油絵コース

理念・教育目標

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、充実した制作環境と指導体制における作品制作が最も重要です。そこから生み出される作品は視覚的な美しさを持つだけでなく、批評的強度を持ちうるものでなければなりません。さらに大学院修了後に作品制作のエキスパートとして活動していくためには、自作品における可能性や問題点を客観的にとらえ、実践していけることが重要です。それには実制作だけにとどまらず作品の構造を論理的にとらえ、美術史や社会状況をふまえた柔軟な思考による研究姿勢が望まれます。

アドミッション・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、絵画を中心に、インスタレーション、映像などさまざまなジャンルの美術作家を養成することを主な目的としています。そのため入学者には作品に十分な内容と質を備えていることに加えて、知的好奇心を持ち、常に謙虚に学ぼうとする姿勢があり、作品制作、作品研究の双方に高い向上心を持って取り組めることが重要です。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、学生の主体的で自由な制作を最大限に活かせるようにカリキュラムを編成しています。美術作家の養成を明確な目的とした本コースでは、在学中から学生という立場を超えて、ひとりの美術作家として自らの作品制作・研究を行う意識を養うことが最も重視されます。そのため大学院1年次では「絵画研究Ⅰ・Ⅱ」、2年次では「絵画研究Ⅲ」というように課題をシンプルに編成し、学生のさまざまな制作スタイルに柔軟に対応できるように配慮されています。そのなかで学生たちは、担当教員を中心にさまざまな教員や周りの学生たちとの対話のなかから作品制作の具体的な方向性を模索し、美術史や社会状況をふまえた深い思考による研究の機会を持ちます。またカリキュラムにかかわらず、活躍中の美術作家や美術批評家、学芸員などの外部からの特別講師などによる直接指導が随時行われ、学生の制作・研究をサポートしていきます。

ディプロマ・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは以下のような学生に学位を与え、修了認定をします。

- 主体的に作品制作に取り組み、美術作家として質の高い独自の表現を身につける。
- 絵画を中心とした美術史・美術理論に幅広い知識を有し、それをふまえた観点から作品制作者としてのみならず、批評性を有した作品鑑賞者としても柔軟に美術をとらえることができる。
- 自らの作品制作を通じて様々な社会状況と有機的な関わりを模索し、美術の世界だけにとどまらず、社会性を持った美術作家としての意識を持つ。

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 17								教育実習			オープンキャンパス 6/21・22(市ヶ谷)		オープンキャンパス 7/12・13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 前期授業終了 7/23		後期修正履修登録 8/8・30・28・29 夏季休業 7/24 8/30
1 年		絵画研究Ⅰ																
2 年		絵画研究Ⅲ																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月		
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31
4期				5期					6期			7期										
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35	
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13	
絵画研究Ⅰ									絵画研究Ⅱ													
修了制作									修了制作													

●祭典 10/24~10/26

版画コース

理念・教育目標

急速に浸透するデジタル印刷技術の革新や、多様化する現代美術表現の渦中にあって、版画表現においても単に技術、技法の習得にとどまらず、表現の本質を真摯に研究することが求められている。本学版画コースでは浮世絵などを代表とする日本独自の版画の根底にある文脈、すなわち『伝統』を理解し、継承する一方で、今生きている社会を見据えて発信する『現代』の清新な版表現の獲得を目指している。版画研究を通して時代を超えて存在する美術の本質を理解し、高度な専門性と豊かな教養を兼ね備えた表現者を育成し、文化の発展に寄与し社会に貢献することを目標とする。

アドミッション・ポリシー

版による表現に真正面から取り組み、作品によって社会に広く発信してゆく表現者を養成することを目指している。よって、版画に対する広範な知識を持ち、独自の表現を提示できる技術、技法を習得しながら作品概念を展開し、版画表現の可能性を追求することが可能な人材を求める。

- 独創的な研究制作テーマを自主的に設定し、版画表現を通して自己実現しながら、創造の本質を問うことができる。
- 作品概念を追い求めるだけでなく、また技術、技法のみに溺れることなく、両者を両立させながら、新たな版画表現の可能性を追求することができる。
- 個の創造領域では独創性を発揮しつつ、共有する工房空間の中では適度な社会性を保ちながら、表現者として研究制作を円滑に進め、作品によって社会に広く発信することが出来る。

カリキュラム・ポリシー

全体

与えられるのではなく、自ら問題提起しながら自主的に計画を立案し、それを起点により高度な専門領域の研究制作を進める。基本的には銅版・リトグラフ・木版・シルクスクリーンなどの主専攻とする版種の技術、技法による表現を中心に、必要に応じて版種をまたいだ制作や、他の複数メディア表現への展開も可能とする。

1 年次

主専攻とする各版種における、より高度な技術、技法を習得しながら作品概念を展開し、さらなる専門性を追求する。

2 年次

真摯に修了制作に取り組み、新たな版画の地平を切り拓くような、意欲溢れた高度な水準の作品制作を実践する。

ディプロマ・ポリシー

版画の持つ歴史的な積み重ねを重視しつつ、同時代の表現に柔軟に対応しながら新たな表現の地平を開拓し、社会に発信できる人材の育成を目標としています。そのため、学位を授与するためには以下のことを求めます。

- 自ら主体的に設定したテーマを基軸に研究制作に取り組み、美術作家として独創性に富んだ表現を獲得する。
- 版画表現、または版概念に基づく美術の歴史や理論全般を深く理解したうえで、自らの作品制作はもとより、批評者の視点でも社会に対して強く発信することが出来る。
- 作品制作における高度な創造性を獲得した上で、社会人として柔軟な視点で物事の状況を見極めながら、自らの知見や経験をもとに社会に対して貢献し、還元することが出来る。

版画コース

造形専門科目教育課程表

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2～9)	前期授業開始 4/10 科目履修登録 4/4～17								教育実習			オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)		オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/17～23 前期授業終了 7/16		後期修正履修登録 8/8～28/29 夏季休業 7/24～8/30
1 年		版画研究Ⅰ (版種別専攻)																
2 年		版画研究Ⅲ (版種別専攻)																

●オリエンテーション週間 4/1～4/6

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月～3月			
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31	
4期				5期					6期			7期											
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35		
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)			卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13	
版画研究Ⅰ (版種別専攻)									版画研究Ⅱ (版種別専攻)														
修了制作 (版種別専攻)									修了制作 (版種別専攻)														

●祭典 10/24～10/26

修士課程

博士後期課程

彫刻コース

理念・教育目標

彫刻コースでは、制作の実践に加え、美術史的な側面や批評的な側面など、様々な角度から彫刻という領域を検証することにより、限りなく自由な表現の追求を目指します。「もの」を作り出すための様々な素材や技術について深く探究できる充実した環境（工房／アトリエ／授業体制）の中で、教員と学生が異なる専門性と方向性を持ち、影響し合うことから、新しい表現を追求し、社会に向けて発信をする場所です。様々な表現が交差する研究機関として、自立した表現者／研究者を目指す人材の集まる場所でありたいと考えています。

アドミッション・ポリシー

彫刻コースでは、彫刻／「もの」との関わりを出発点に各自のテーマを追求し、社会の幅広い分野において自立した表現／研究活動が続けることのできる人材の育成を目的としています。その為に、以下の様な学生を募ります。

- 追求すべきテーマを持ち、多方面からの批評と指導の中で研修を深化することのできる人。
- 彫刻における優れた表現技術を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。
- 独自の表現方法を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。
- 彫刻の表現に批評的な視座を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。

カリキュラム・ポリシー

彫刻コースでは、学生各自に対して学外での作品発表を含めた年間の制作計画の作成を求めます。その計画を前提に、【各自の専門性・独自性の追求を目的とした実技面】【作品を成り立たせている基盤を問う美術史的、批評的な観点の主眼とした理論面】の両面から指導を行います。具体的な授業内容は以下の通り。

- 「彫刻研究Ⅰ」「彫刻研究Ⅱ」
専任教員の継続的な指導に加え、客員教授、及び外部の批評家、研究者、キュレーター、作家によるゲスト講師と数回に渡るプレゼンテーション＋ディスカッションを行い、最終的に学外へ向けた展示を行う。
- 「彫刻研究Ⅲ」
専任教員の継続的な指導に加え、客員教授、及び外部の批評家、研究者、キュレーター、作家によるゲスト講師と数回に渡るプレゼンテーション＋ディスカッションを行う。また、本学内外の批評を専門とする学生＋ゲスト講師と協働で展示と記録集（批評集）の企画制作を行う。

ディプロマ・ポリシー

彫刻コースでは、カリキュラムを通じた研修過程と成果を踏まえ、以下の内容に該当する学生に修士の学位を授与し修了認定をします。

- 彫刻制作における優れた表現技術の探究と作品によるその実現性が認められる。
- 自身の作品制作をふまえた美術史、美術理論への幅広い知識と独創的な見解を有している。
- 独自の表現を理論的に展開している。
- 自立した美術作家として、主体的に社会と関わる意識、批評的視点を獲得している。

彫刻コース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 17										オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/30 28 29 夏季休業 7/24 8/30
1 年		彫刻研究Ⅰ																
2 年		彫刻研究Ⅲ																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月				
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31		
4期				5期					6期			7期												
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35			
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)			卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13		
彫刻研究Ⅱ									彫刻研究Ⅱ															
修了制作									修了制作															

●祭典 10/24~10/26

美学美術史コース

理念・教育目標

美学美術史コースでは、造形表現についての理論的な考察の方法と、美術作品の特質を歴史的観点から捉える方法を体系的に学びます。研究領域は洋の東西を問わず古代から現代まで、研究対象も絵画・彫刻・建築という古典的な美術の分野から、工芸、デザイン、現代の多様な表現形式による作品までを視野に収め、総合的な教育を行います。柔軟な知性と感性をもって美術作品に接し、作品の観察と解釈を基盤に据えた研究を行い、その成果を明晰な言葉で伝える力を養うことが、本コースの教育目標です。

アドミッション・ポリシー

美術作品を深く理解しようとする意欲と、自ら設定した問題を考える方法を真剣に学ぶ姿勢があり、研究を遂行するための主体性と行動力を持っている学生を受け入れます。また、各自の研究テーマに関連する外国語文献や漢籍などの資料を読むための基礎的な能力を持っていることが求められます。これらの条件に適っていれば、学部で美術史あるいは美学芸術学を専攻した学生に限らず、実技・制作を学んだ人たちの入学も歓迎します。

カリキュラム・ポリシー

本コースの理念・教育目標に従い、総合的かつ専門的な学修のためのカリキュラムを編成しています。

選択必修科目では、日本・東洋・西洋の美術史および美術理論を専門とする教員が、それぞれの専門領域に関する講義または演習を行います。学生はそれらの科目の履修を通じて、古今東西の造形芸術に関する幅広い知識を身につけるとともに、美学・美術史の基礎概念と、作品分析や資料の読解などの基礎的な研究方法を学びます。

必修科目「造形学演習」(Ⅰ・Ⅱ)では、美学美術史研究室の専任教員全員が指導にあたり、各教員の専門領域における先端的な研究動向の紹介や、美術館、博物館、修復工房などの見学を実施します。また、この演習では、修士課程と博士後期課程の学生が各自の研究テーマに基づく発表を年に2回ほど行います。修士課程の学生は、修士論文のための研究の進捗状況をここで報告し、教員と学生全員が参加するディスカッションを通じて、発表内容に関する助言や示唆を受けます。

本コースの学生は、これらの科目の履修と並行して、自身が設定したテーマの研究に取り組みます。指導教員をはじめ複数の教員から個別の指導を受け、また「造形学演習」での発表によって進捗状況を報告しながら研究を進め、修士課程の学修の成果となる修士論文を完成します。

ディプロマ・ポリシー

以下の目標に達したと認められる学生に、修士の学位を与えます。

- 造形芸術に関する広範な知識を持ち、美学・美術史研究の基礎的な方法を習得している。
- 研究対象とする美術作品の観察・分析と、関連資料や先行研究の的確な理解に基づいて、論理的な考察を行うことができる。
- 自ら研究テーマを設定して、学術的な方法による調査研究を行い、独創性のある成果を導くことができる。
- 調査研究によって得られた新しい知見を学術論文として提示するための論述能力と表現力を身につけている。

美学美術史コース

時間割

	1 時限 (9:00～10:30)	2 時限 (10:40～12:10)	3 時限 (13:20～14:50)	4 時限 (15:00～16:30)	5 時限 (16:40～18:10)
月			※西洋美術史研究 (北澤)	※美学芸術学研究 (沢山)	
火		※東洋美術史研究 (奥)	☆現代芸術研究 (村上) ※現代建築論 (岡山)	☆日本美術史研究 (玉蟲)	※近現代美術史演習 (村上)
水	◎造形学演習			※工芸史演習 (木田)	
木		※東洋美術史演習 (奥)	※デザイン史研究 (木田)	☆日本近現代美術史研究 (前田)	
金					

☆……各コース共通の選択科目

◎……当該コースの必修科目

※……当該コースの選択必修科目であるが、他のコースの学生も共通選択科目として履修できる。

芸術文化学コース

理念・教育目標

芸術文化学コースでは、社会における芸術文化の多様なあり方や、社会に対するアートやデザインの意義をとらえ、芸術文化の社会での活用について研究・実践・表現等の活動ができる「芸術文化学」の高度な専門性を身に付けることを目指しています。

そのために、アート・デザインを基盤とした上で、芸術文化領域のプランニング・マネジメント・ミュゼオロジーを主軸として、下記の専門領域を中心に、それらを越境する学際的な観点から、理論と実践を通じて領域横断的に学修・研究します。

【主な専門領域 (50 音順)】

アート・マネジメント、アニメーション、印刷文化、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン、映像デザイン、映像文化、エディトリアル・デザイン、絵画・立体造形、鑑賞教育、近現代美術、キュレーション、空間芸術、空間デザイン、グラフィック・デザイン、視覚文化、装丁、タイポグラフィ、地域文化、デザイン史、デザイン方法論、展示デザイン、美術館教育、美術教育、美術史、文化史、批評、表象文化、プロジェクト・デザイン&マネジメント、ポップカルチャー、編集、メディアの批評的実践

【芸術文化学】

人々が作品の創造や鑑賞などの行為によって心身の充実を追求する「芸術」と、精神的・身体的活動を通じて確立し、継承、変化させ続けてきた「文化」、その「芸術」と「文化」を社会にどのように活かすのかについて、領域横断的かつ実践的に研究する学問領域。

アドミッション・ポリシー

探求すべき自己の研究テーマと、芸術文化に関する基礎的な専門性、社会に対する多様な関心を持ち、主体的な行動力によって専門性を高め研究を推進しようとする意欲のある志願者を求めます。

主に、芸術文化領域において実践と理論の両面を重視する、学術研究者、学芸員・キュレーター（教育普及担当者・エデュケーターを含む）、教育者、批評家、出版編集者、プロデューサー・ディレクター、コンサルタント、起業家、企業・行政・NPO スタッフ、アーティスト・デザイナー・クリエイターなど、修了後に芸術文化を社会で活かせる担い手を希望する人材を歓迎します。

カリキュラム・ポリシー

本コースのカリキュラムでは、まず、芸術文化の現代の社会における多面的な状況と課題や可能性について、歴史的な観点を踏まえて把握するとともに、プランニング・マネジメント・ミュゼオロジーおよび芸術文化研究の多様な実践事例と手法の知見を深めることを目指します。その上で、調査・考察と論文執筆のための専門的な研究方法について学び、加えて、定期的な研究プレゼンテーションによって社会発信の意識を獲得します。

1 年次は、前期・後期で、「芸術文化学演習Ⅰ」と「芸術文化学特論Ⅰ」で、幅広く多様な芸術文化の社会活用について講義・演習によって学ぶとともに、後期の「芸術文化学演習Ⅰ」では、テキスト講読・論文執筆演習を実施してプレ修士論文提出により研究のための知識と方法論を学びます。2 年次は、「芸術文化学特論Ⅱ」でより専門的な芸術文化の社会活用の事例研究を講義で学び、「芸術文化学特論Ⅱ」で各自の研究指導を演習で行って、研究成果を文字数 40,000 字以上の修士論文にまとめます。また、修了展で展示するための概要パネルも作成することで、効果的な発信の手法を実践的に身につけます。

ディプロマ・ポリシー

本コースでは以下のような学生に学位を与え、修了認定をします。

- プランニング・マネジメント・ミュゼオロジーの複合的な方法論と、芸術文化についての広範な知見をもとにした、芸術文化の社会活用に対する高い批評性を持った視点を獲得している。
- 芸術文化領域における学際的な観点と、理論・実践の両面を重視した越境的な方法によって、芸術文化の社会との関係性を踏まえた課題意識に立脚した、独自性のある研究と論理的な論文執筆を遂行できる。
- 自己の研究成果の社会的な意義を客観的に把握して、適切な発信と実践への活用を実現するための知識・能力を身につけている。

理念・教育目標

芸術文化政策コースでは、社会における芸術文化の多様なあり方や、社会に対するアートやデザインの意義をとらえ、芸術文化の社会での活用について研究・実践・表現等の活動ができる「芸術文化学」の高度な専門性を身に付けることを目指しています。

そのために、アート・デザインを基盤とした上で、芸術文化領域のプランニング・マネジメント・ミュゼオロジーを主軸として、下記の専門領域を中心に、それらを越境する学際的な観点から、理論と実践を通じて領域横断的に学修・研究します。

【主な専門領域 (50 音順)】

アート・マネジメント、アニメーション、印刷文化、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン、映像デザイン、映像文化、エディトリアル・デザイン、絵画・立体造形、鑑賞教育、近現代美術、キュレーション、空間芸術、空間デザイン、グラフィック・デザイン、視覚文化、装丁、タイポグラフィ、地域文化、デザイン史、デザイン方法論、展示デザイン、美術館教育、美術教育、美術史、文化史、批評、表象文化、プロジェクト・デザイン&マネジメント、ポップカルチャー、編集、メディアの批評的実践

【芸術文化学】

人々が作品の創造や鑑賞などの行為によって心身の充実を追求する「芸術」と、精神的・身体的活動を通じて確立し、継承、変化させ続けてきた「文化」、その「芸術」と「文化」を社会にどのように活かすのかについて、領域横断的かつ実践的に研究する学問領域。

アドミッション・ポリシー

探求すべき自己の研究テーマと、芸術文化に関する基礎的な専門性、社会に対する多様な関心を持ち、主体的な行動力によって専門性を高め研究を推進しようとする意欲のある志願者を求めます。

主に、芸術文化領域において実践と理論の両面を重視する、学術研究者、学芸員・キュレーター（教育普及担当者・エドゥケーターを含む）、教育者、批評家、出版編集者、プロデューサー・ディレクター、コンサルタント、起業家、企業・行政・NPO スタッフ、アーティスト・デザイナー・クリエイターなど、修了後に芸術文化を社会で活かせる担い手を希望する人材を歓迎します。

カリキュラム・ポリシー

本コースのカリキュラムでは、まず、芸術文化の現代の社会における多面的な状況と課題や可能性について、歴史的な観点を踏まえて把握するとともに、プランニング・マネジメント・ミュゼオロジーおよび芸術文化研究の多様な実践事例と手法の知見を深めることを目指します。その上で、調査・考察と論文執筆のための専門的な研究方法について学び、加えて、定期的な研究プレゼンテーションによって社会発信の意識を獲得します。

1 年次は、前期・後期で、「芸術文化政策演習Ⅰ」と「芸術文化政策特論Ⅰ」で、幅広く多様な芸術文化の社会活用について講義・演習によって学ぶとともに、後期の「芸術文化政策演習Ⅰ」では、テキスト講読・論文執筆演習を実施してブレ修士論文提出により研究のための知識と方法論を学びます。2 年次は、「芸術文化政策特論Ⅱ」でより専門的な芸術文化の社会活用の事例研究を講義で学び、「芸術文化政策演習Ⅱ」で各自の研究指導を演習で行って、研究成果を文字数 40,000 字以上の修士論文にまとめます。また、修了展で展示するための概要パネルも作成することで、効果的な発信の手法を実践的に身につけます。

ディプロマ・ポリシー

本コースでは以下のような学生に学位を与え、修了認定をします。

- プランニング・マネジメント・ミュゼオロジーの複合的な方法論と、芸術文化についての広範な知見をもとにした、芸術文化の社会活用に対する高い批評性を持った視点を獲得している。
- 芸術文化領域における学際的な観点と、理論・実践の両面を重視した越境的な方法によって、芸術文化の社会との関係性を踏まえた課題意識に立脚した、独自性のある研究と論理的な論文執筆を遂行できる。
- 自己の研究成果の社会的な意義を客観的に把握して、適切な発信と実践への活用を実現するための知識・能力を身につけている。

芸術文化学コース
芸術文化政策コース
造形専門科目教育課程表

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/4~17										オープンキャンパス 6/21 22市ヶ谷			オープンキャンパス 7/12 13鷹の台	前期補講・試験週間 7/16~17 23		後期修正履修登録 8/8 30 28・29 夏季休業 7/24~8/30
1 年		芸術文化学演習Ⅰ(木3・4)																
		[専任教員全員]																
		芸術文化学特論Ⅰ(金4)																
		[本間]																
2 年		芸術文化政策演習Ⅱ																
		[専任教員全員]																
		芸術文化政策特論Ⅱ(月2)																
		[松浦]																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月		
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31
4期				5期					6期			7期										
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35	
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13	
芸術文化学演習Ⅰ(木4)																						
[古賀]																						
芸術文化学特論Ⅰ(月1)																						
[竹丸]																						
芸術文化政策演習Ⅱ																						
[専任教員全員]																						
芸術文化政策特論Ⅱ(金3)																						
[森]																						

●祭典10/24~10/26

デザイン専攻

視覚伝達デザインコース

理念・教育目標

修士課程前期視覚伝達デザインコースはヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン領域における表現、手法、理論において、デザインの高度化への社会の要請に応え、かつ国際的にも活躍しうる人材を育成します。その領域は学部の視覚伝達デザイン領域に含まれるグラフィック、視覚情報、視覚環境系はもとより、デザイン方法論、デザイン史、ソーシャルデザイン、他の学際領域とのコラボレーションによる新たなデザイン領域の開拓等が含まれます。

アドミッション・ポリシー

私達が望む院生の人物像とは、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの分野において、自身の研究テーマあるいは制作活動をより深く詳細に独自の視点で展開し、デザインの今日的なあるいは近未来的な問題解決に取り組もうとしている人。

カリキュラム・ポリシー

大学院教育で視覚伝達デザインコース入学者全員に必須とされているのは

- (1) 全ての視覚的な媒体の分析の基本として視覚記号論を学ぶ。
- (2) ヴィジュアル・コミュニケーション史を前提にして情報に対する創造的なリサーチと分析、編集、統合（視覚的シンタックス）手法を学ぶ。
- (3) 生態学的知覚論と心理学を軸とした学際領域の知見の習得。
- (4) 国際的なデザイン領域を学び、新たなソーシャルデザインの可能性の発見。

共通必修と並行して1年次から専任教員が、入学者の学習目的にあわせて徹底した専門教育を行い、修士論文または修士制作に繋げていきます。必要な場合、副査指導教員として学内外の専門家を招聘することもあります。

ディプロマ・ポリシー

理念・教育目標のもと編成されたカリキュラムの修了単位数を満たし、修了制作・研究が以下の内容を満たしているかを基準に、以下のレベルに達した者に学位を与え、修了認定をします。

- デザインの今日における社会的問題、社会的な要請に対して、高度な意義を持った、論文・制作テーマを展開している。
- デザイン研究対象に対し、独創的な観点、独自性を有した方法論的展開を持った、論文・制作となっていること。

視覚伝達デザインコース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 4/17										オープンキャンパス 6/21 22 市ヶ谷			オープンキャンパス 7/12 13 鷹の台	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/8 30 28 29 夏季休業 7/24 8/8
1 年		視覚伝達デザイン演習Ⅰ (大田・北條)																
		視覚情報論Ⅰ (堀口)																
		修了論文・制作指導 (キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田・北條・堀口)																
2 年		視覚伝達デザイン演習Ⅱ (寺山・石塚)																
		視覚情報論Ⅱ (キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田)																
		修了論文・制作指導 (キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田・北條・堀口)																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月			
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31	
4期				5期				6期				7期											
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35		
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18鷹の台キャンパス		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1市ヶ谷キャンパス	卒業式 3／13		
視覚伝達デザイン演習Ⅰ（大田・北條）																							
視覚情報論Ⅰ（堀口）																							
修了論文・制作指導（キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田・北條・堀口）																							
視覚伝達デザイン演習Ⅱ（寺山・石塚）																							
視覚情報論Ⅱ（キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田）																							
修了論文・制作指導（キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田・北條・堀口）																							

工芸工業デザインコース

理念・教育目標

大学院造形研究科工芸工業デザインコースでは、高い独自性を持ち、精度の高い研究・表現を遂行できる学生の育成を目標としています。高い専門性を持った人材として社会で活動していくためにデザイン全般において多様化する考え方の認識を持つこと、作品を構成する理論を構築することはもとより、他には比類のない高い造形性を習得することを重視しています。またインダストリアル、インテリア、クラフトデザインのすべての領域で社会との接点を重視し養成することを目指します。

アドミッション・ポリシー

大学院造形研究科工芸工業デザインコースでは高い提案性、造形性を持った製品、空間、アートにまたがる様々なジャンルのデザイナー、作家を養成することを主な目的としています。そのため入学者にはこれまでの制作した作品が十分な内容と質を備えていることに加えて、高い独自性を持ち、造形に真摯に向き合うことができる者、自身の提案・研究に対して時間をかけ熟考できる人材を求めます。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形研究科工芸工業デザインコースでは1年次では自身の研究の方向性を定めるための制作、調査、研究を行います。インダストリアルデザインコースでは主に自身のデザインテーマに基づいた既存デザインの研究とその上でのコンセプト立案、インテリアデザインコースでは幅の広い解釈が可能なテーマで前期、後期に複数回の課題制作、クラフトデザインコースでは自身のテーマに基づいた作品制作を通して学んでいきます。

2年次では修了制作に向かって自らのデザイン・作品を確立していくことを目標としています。インダストリアルデザインコースでは造形としての完成度を高め、精度の高い理論構築を目指します。インテリアデザインコースでは自身の作品のテーマの深い掘り下げと造形・素材の実験を重ねながら完成度を高めていきます。クラフトデザインでは社会に還元できるモノ作りの姿勢を探究し、文化を牽引する表現を視野に入れ、作品制作を重く位置付けます。

ディプロマ・ポリシー

大学院造形研究科工芸工業デザインコースでは以下の能力を習得した学生に学位を与え、修了認定をします。

- 独自性の高い提案性、デザイナー、表現者としての高い造形性。
- 多様化するデザイン・アートの表現に対して幅広い知識を有し、俯瞰して自身のデザイン・表現がどのような立ち位置にあるのか理解する力。
- 自身のデザイン・表現が自己で完結することなく、社会に対して発信し、関わりを生み出す力。

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 17										オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/28 29 夏季休業 7/24 8/30
1 年		第1TERM 【方法論の理解とトライアル】 ●研究目的の探究 ●テーマ設定のスタディ ●情報収集と分類・分析—I ●コンセプトメイキング ●主旨内容構築 ●情報収集と分類・分析—II																
2 年		第3TERM 【造形及びデザインングのトライアル】 ●第1TERM、第2TERMの成果物の再確認と軌道修正 ●造形、デザインングの展開とプロセス ●モデル試作—IIによる検証 ●制作開始																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月			
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31	
4期				5期				6期				7期											
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35		
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13		
第2TERM 【研究の理論的アプローチと図式のトライアル】																							
●第1TERMのまとめと確認 ●中間プレゼンテーション ●完成形のイメージネーションの構築 ●モデル試作—Iによる検証 ●講評																							
第4TERM 【造形及びデザインングのまとめ】																							
●制作継続 ●第3TERMの最終まとめ ●表現方法の検討 ●プレゼンテーション方法の検討と作成 ●講評																							

●祭典 10/24~10/26

空間演出デザインコース

理念・教育目標

空間演出デザインコースは、「舞台芸術空間デザイン」、「インテリアデザイン」、「環境メディアデザイン」、「ファッションデザイン」の4つの領域で構成され、当コースは、各々の4つの領域を横断する理念として「造空思考」を掲げます。

造空思考とは、地と図という言葉で表現されるように、作り出されるカタチには、必ずカタチを内包する空間が同時に作り出される、つまり、カタチをつくる「造形」とは、空間をつくる「造空」と同意である。という考えから空間を演出することを思索する思考です。

当コースでは、造形＝モノをつくる、表現するというモノ中心の視座ではなく、造形と空間を同じ意識で考える「造空思考」を基にした表現・手法・理論の研究と実践を教育の目標として定め、修了後、アーティスト、デザイナー、技術者など、「造空思考」の専門家として、世界のあらゆる社会、場所において、独創的な作品、アイディア、指針を提案できる人材、また、各々の領域で後進を育てることが出来る人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

空間演出デザインコースは、以下の人材を求めます。

1. 「造空思考」を深化させるための更なる学修を求めているヒト。
2. 空間演出デザイン4領域いずれかにおいての基本的な表現と技術、知識を習得しているヒト。
3. 他者や異文化に対する国際的な視座を持ち、表現によって諸問題の解決に取り組もうとしているヒト。
4. 独自の学修目標を持ち、領域にとらわれない表現によって諸問題の解決に取り組もうとしているヒト。

カリキュラム・ポリシー

空間演出デザインコースでは、ディプロマポリシーに則り、以下のカリキュラムで構成されています。

1. 2年間にわたり、演習科目である実技と、専門理論科目の講義が開講され、より専門的な教養と造空思考と、高度な表現技術を身につけるためのカリキュラムが編成されています。
2. 演習科目では、学生は4つの領域から個別の研究テーマに則した専門領域を選択することが可能です。
3. 指導教員とのディスカッションにより、論文による研究発表、作品制作による研究発表、いずれかの選択を含む指導計画が策定され、教員との対話により、研究を深めることを重視した指導が行われます。
4. 専門理論科目では、各々の領域の教員、ゲスト講師による専門的な講座(空間演出デザイン特論Ⅰ・Ⅱ)が開講され、領域横断で幅広い教養を身につけ、学修を支援するためのカリキュラムが編成されています。
5. 2年次は、修士修了論文または修士修了制作に繋げるために、研究テーマに即し、専門的に深化した内容の個別指導が継続されます。

ディプロマ・ポリシー

空間演出デザインコースは、以下の能力や学識の修得を学位授与の要件とします。

1. 高度な専門性と深い学識
 - (1) 専門的知識と、調査・研究のための方法・技能を系統立てて身につけている。
2. 教養
 - (1) 芸術全般についての幅広い教養と理論、造空思考を身につけている。
 - (2) 表現者として、(1)を基礎とした批評性を身につけている。
3. 国際性
 - (1) 他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力を身につけている。
4. 表現力
 - (1) 調査・研究の成果と自分の知見を構築した総合的な表現を身につけている。
 - (2) 社会と芸術における新たな課題を発見し、制作表現を通して解決の道筋を構想できる。
5. 独自の学修目標
 - (1) 高度な専門性と深い学識、教養、国際性、表現力に基づいて、独自性を備えた制作表現ができる。

空間演出デザインコース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 4/17										オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/8 30 28 29 夏季休業 7/24 8/30
1 年		空間演出デザイン演習Ⅰ																
		○専任																
		空間演出デザイン特論Ⅰ(月2)																
		○専任																
2 年		空間演出デザイン演習Ⅱ																
		○専任																
		空間演出デザイン特論Ⅱ(月3)																
		○専任																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月		
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31
4期				5期					6期			7期										
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35	
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)			卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13
空間演出デザイン演習Ⅰ																						
○専任																						
空間演出デザイン特論Ⅰ(月2)																						
○専任																						
空間演出デザイン演習Ⅱ				修了制作																		
○専任				○専任																		
空間演出デザイン特論Ⅱ(月3)																						
○専任																						

●祭典 10/24~10/26

建築コース

理念・教育目標

建築コースは「価値ある空間の創出」を基本理念とし、室内から都市全体、ひいては地球環境に至る人間の活動を支える空間に関して、今日的あるいは普遍的な社会的課題を自ら発見し、実践的に取り組む人材を育成します。

専門的知識を備えながら、自然科学、人文科学、社会科学、芸術学にまたがる幅広く複眼的な視点で物事を捉え総合化していく力を持ち、豊かな感性と高い倫理性を備える人材の育成を目標とします。

アドミッション・ポリシー

- 建築、および環境デザインの領域において幅広い教養と知識を身につけながら、自身の研究テーマについて意識を強く持ち、継続的かつ段階的に展開する能力の高い人。
- 今日の社会的課題を自身の問題としてとらえ、実践的に関わろうとする意欲の高い人。
- 建築、および環境デザインの領域における高度な専門知識・技術習得に意欲の高い人。

カリキュラム・ポリシー

建築コースの研究過程は、自身の研究テーマを着実に段階的に展開・深化させるため、スタジオ制教育（少人数での特論・演習・実習）が中心となります。指導教員によって、分野およびテーマ展開の方向性が異なります。

1年次における客員教授による設計演習は、コース全体で実施される科目で、現代の生活環境を反映した課題が出され、構想から詳細なデザインまで一貫した視点を提示することが求められます。

大学院で開講している科目の単位取得数により、建築士試験の大学院における実務経験年数1年または2年が認定されます。

ディプロマ・ポリシー

理念・教育目標のもと編成されたカリキュラムの修了単位数を満たし、修了制作・研究のテーマと最終成果が批評に耐えうる内容を持っているかを、以下の視点で指導担当教員全員が評価します。

- 制作・研究のテーマがもつ意義
- テーマを展開する際の高い創造性・独自性
- 制作・研究における高い完成度

上記を満たした学生に学位を与え修了認定をします。

建築コース

専門教育科目教育課程表

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2～9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 4/17										オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/17 18 前期授業終了 7/16		後期修正履修登録 8/8 28 夏季休業 7/24 8/30
1 年		建築デザイン特論Ⅰa														建築設計 インターンシップⅠ		
		建築設計演習Ⅰa 建築デザイン演習Ⅰ																
		建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																
		教育実習																
2 年		建築デザイン特論Ⅱa														建築設計 インターンシップⅢ		
		建築設計演習Ⅱ 建築デザイン演習Ⅱ																
		建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																

●オリエンテーション週間 4/2～4/9

9月				10月				11月				12月				2025年1月				2月~3月																	
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31															
4期				5期								6期				7期																					
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35																
後期授業開始 9／1								芸術祭活動 10／20 11／1								後期授業終了 12／13				後期補講・試験週間 12／15 20				冬季休業 12／22 1／6				卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)				卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)				卒業式 3／13	
建築デザイン特論Ⅰb																建築設計 インターン シップⅡ																					
建築設計演習Ⅰb 建築デザイン演習Ⅰ																																					
建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																																					
建築デザイン特論Ⅱb																																					
建築設計演習Ⅲ 建築デザイン演習Ⅲ																																					
建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																																					

● 祭典 10/24～10/26

修士課程

博士後期課程

大学院における建築士試験の実務経験について

建築士法改正に伴い平成 21 年度入学の大学院入学者から大学院における建築士免許登録資格の実務経験要件が変わりました。大学院で建築士試験の実務経験を取得する場合は、下記の科目構成を理解し、担当教員と相談の上、計画的に履修すること。

■ 科目構成（建築士試験における実務経験に係る科目）

1. インターンシップ

①学内インターンシップ

建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（高橋スタジオ、布施スタジオ、小西スタジオ、菊地スタジオ、持田スタジオ）

②学外インターンシップ

建築設計インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ

2. インターンシップ関連科目

①演習・実験・実習（8単位以内）

建築設計演習Ⅰa、Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ（高橋スタジオ、布施スタジオ、小西スタジオ、菊地スタジオ、持田スタジオ）

②講義科目（8単位以内）

建築設計特論、建築構法特論、建築設備特論、建築計画特論

■ 実務経験年数と必要単位数

1. 実務経験年数を1年とする場合

①建築士試験における実務経験に対応した指定科目を15単位以上取得すること

②インターンシップの単位を4単位以上取得すること

2. 実務経験年数を2年とする場合

①建築士試験における実務経験に対応した指定科目を30単位以上取得すること

②インターンシップの単位を14単位以上取得すること

基礎デザイン学コース

理念・教育目標

大学院造形研究科修士課程デザイン専攻基礎デザイン学コースでは、デザインの各専門領域、広く造形に通底する問題、あるいはデザイン論、デザイン史、さらに形態や色彩についての諸説やその歴史を、今日の情報・通信をはじめとする技術革新や産業・生活構造に位置づけながら、社会的・人間的・文明的な文脈において研究します。現在顕在化してきている情報やメディアのためのデザイン、社会のためのデザイン、グランドデザインの領域においても上記の視点からさまざまな問題が発見され、新たな研究領域が拓かれつつあります。また、それらの問題に対する理解や解決、批判あるいはデザインの提案に対しては、問題を総合的に捉える思考と方法論が求められています。基礎デザイン学は、社会的・人間的・文明的な文脈の中にデザインの研究・応用領域を拓いていく創造的な研究領域であるといえます。

アドミッション・ポリシー

大学院造形研究科修士課程デザイン専攻基礎デザイン学コースでは、教育目標に基づいて、デザインの理解を社会的・人間的・文明的な文脈に広く求め、逆にそれらの文脈の中にデザインの研究・応用領域を拓いていくことができる人材、また日常生活の中にそれを展開しうる人材、デザインばかりでなく、研究の視点によりそれらに貢献しうる人材を求めます。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形研究科修士課程デザイン専攻基礎デザイン学コースでは、2年間を通して、デザイン論特論を必修としています。その特徴は、デザインと美術に通底する造形の問題を歴史的な視点から批判的に検討することと、哲学と科学の方法論を記号論を中心として学ぶことにより総合的な視点を獲得することです。

デザイン理論演習では、専任教員により、以下のような専門的な指導を行います。

- コミュニケーション・デザインの手法
- デザインと科学を架橋する視点からの造形
- 生活におけるデザインの源泉としての「美」や「魅力」の実証的な研究とデザイン
- 表現の生成や構造に関する研究
- 造形（形態と色彩）の水脈を探る思想と理論
- インタラクションに基づくデザイン

ディプロマ・ポリシー

大学院造形研究科修士課程デザイン専攻基礎デザイン学コースでは、カリキュラムポリシーに基づく授業を履修し、以下の内容が修士論文・修士制作に反映されている学生に学位を与え、修了認定をします。

- 研究的視点に基づく制作、あるいは制作の基盤となりうる研究を行うことができる。
- 社会的・人間的・文明的な文脈の中にデザインの研究と応用領域を自ら拓いていくことができる。

基礎デザイン学コース

時間割

		1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
月	前	デザイン理論演習 I e・II e (小林)	デザイン論特論 I (畑)			デザイン理論演習 I b・II b (原)
	後		デザイン論特論 I (原・板東)			
火	前		交換留学生ゼミ (小林・板東)			
	後					
水	前		【通年】 デザイン論特論 II (後藤)	デザイン理論演習 I d (菱川) デザイン理論演習 II d (菱川)	デザイン理論演習 I g・II g (清水)	
	後					
木	前	デザイン理論演習 I a (板東)	デザイン理論演習 II a (板東)			
	後		デザイン理論演習 I f・II f (田中)			
金	前					
	後					
土	前					
	後					

凡例 授業名 (担当教員)

デザイン情報学コース

理念・教育目標

デザイン情報学コースは、多様なデザイン行為やメディア表現を情報学の視座から研究し、生活や社会環境に対する新たな捉え方を提示することを教育理念とします。また、本コースは、研究アプローチによって最適な研究成果を求め、論文執筆もしくは作品制作、またはその複合的な成果も受容し、デザインとその周辺世界を開拓する理論構築とその実践を教育目標とします。

アドミッション・ポリシー

先端的な科学技術文明と生活をつなぐ「汎技術としてのデザイン知」を実社会に活かすために、「様々なメディアに対応する表現方法」「コミュニケーションを軸とした創発的思考」「デザイン・アートにおけるデジタル技術」に関心を持ち意欲的に取り組む素質と目的意識を有する学生を求めています。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形科デザイン専攻デザイン情報学コースでは、現代社会のさまざまな事象を情報学の視点から分析し、デザインの思考で再構築し提示できる研究者の養成を目的としています。また、デザインの専門領域がデジタル化によってボーダレスになっている流れを本コースでは「様々なメディアに対応する表現方法」「コミュニケーションを軸とした創発的思考」「デザイン・アートにおけるデジタル技術」の3つの視点で捉え、学生が主体的に研究・制作領域を開拓していくためのカリキュラムで構成しています。大学院2年間を通して「デザイン情報学統合演習Ⅰ・Ⅱ」で、学生自ら研究テーマを設定し、関連する分野の先行研究・事例を調査しながら分析的な思考を養い、修士研究・作品制作を計画・実行していきます。本コースの各専任教員は以下の研究領域を専門としており、その中から選択し指導を受けることができます。

- ・グラフィックデザインを基点としたメディア編集術およびアジアデザイン
- ・創発的なコミュニケーションのデザインとデジタルコンテンツデザイン
- ・コンピュータ関連分野。オペレーティングシステム、ネットワーク関連
- ・Webを基盤とする写真表現（Photography as web-based art）の実践的な研究
- ・デザイン分野における心理学的分析およびデザインリサーチ
- ・手続型コンピュータグラフィックスによる造形表現

ディプロマ・ポリシー

大学院造形科デザイン専攻デザイン情報学コースでは以下の項目に示す能力を習得した学生に学位を与え、修了認定をします。

1. 自己の研究・制作に関連する領域を独自の新規性のある視点で捉え、研究を進めることができる
2. 主体的に論文執筆もしくは作品制作、またはその複合的な成果として具体的に体现し、社会へ向けて発表・発信することができる
3. 現代社会のさまざまな事象を情報学の視点から分析し、デザインの思考で再構築し提示できる

デザイン情報学コース

時間割

期	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期
1 年	デザイン情報学特論Ⅰ A			デザイン情報学特論Ⅰ B			
	デザイン情報学統合演習Ⅰ						
2 年	デザイン情報学特論Ⅱ A			デザイン情報学特論Ⅱ B			
	デザイン情報学統合演習Ⅱ						

構成（研究領域）

造形芸術専攻からなる博士後期課程の教育課程は、修士課程までの教育課程を基礎としながらも、修士課程の美術専攻とデザイン専攻を統合的に再編し、専門の深化にも対応するものです。

造形芸術専攻は、作品制作、環境形成、および美術理論という相互に横断的な三つの研究領域を設定しています。これらの研究領域は、学生がいずれかの領域に属しながらも他の領域からの知識や刺激が絶えず得られるように、有機的に結びついています。

自らの専門を深めようとするとき、それが属する研究領域において制作や研究を深めていくのは勿論ですが、隣接する研究領域の制作や研究の成果はそのための教養の前提として作用する以上の役割を果たします。関連領域の研究成果や識見によって、隣接する領域と個々の制作・研究活動の差異性や独自性が、また隣接領域との関係により、それらと通底する本質的な課題が自覚されるからです。

三つの研究領域は、自律性をもちながら、それぞれが他の専門を極めるために役立つ領域と考えることができます。

（1）作品制作研究領域

自然の中の一存在である人間は生の普遍的な本質を探り表す手段として、さまざまな表現活動を行ってきました。物を創ること、自己のイメージを顕在化することは人間の本質的要求であり、作品は制作者自身の生の実感や強い欲求から生まれてきたといえます。ここでは、これらの表現への意欲や欲求をあらためて問い直すことで人間存在に関わる新たな世界観の創出を目指します。

この研究領域では、作品の制作を通して、美術表現における認識、価値観、表現方法、素材、技術、歴史など様々な問題を探究し普遍的で新たな表現の可能性を探ります。

制作手段としては、平面表現—絵画（日本画、油絵、版画等）立体表現（彫刻、立体造形）空間造形表現を深めるばかりでなく、他の研究領域との協同作業も視野に入れたプロジェクト計画、映像表現、インスタレーションなどの造形芸術分野、さらに多様なメディア表現を加えこれらの横断的で複合的な新たな表現領域の可能性も探ります。

（2）環境形成研究領域

現代社会における、ひと、もの、情報、それらからなる環境を対象としてその相互のよりよい関係を目指し、優れた技術と知見によって、環境形成を目指す研究領域です。

コミュニケーションデザイン、プロダクトデザイン、クラフトデザイン、空間デザイン、建築、映像デザイン、情報デザイン、などの分野が含まれます。研究テーマとしては次のようなことが考えられます。さまざまな道具・空間・情報に係るデザイン研究、さらに、道具・空間・情報の生産と使用における物質と人間のかかわりや環境課題を対象とする研究、人間の認知をはじめとする行動などの評価と行動に関する研究、環境形成作用と社会・経済構造の関係を見据えた環境設計システム（仕組み）のデザインと研究、これにはマネジメントや政策も含まれます。

（3）美術理論研究領域

造形芸術領域（美術、建築、デザイン、工芸、メディア・アートなど）に関する歴史研究および理論研究を行います。造形芸術に関する歴史的、理論的研究は、現在、それぞれの対象領域が拡大しており、また隣接する諸科学との協働も必然的なものとなっています。ここではアクチュアルな制作実践や社会との影響関係にかかわる課題の研究も行います。したがって、歴史的、理論的研究を狭い領域の専門性へと囲い込むことなく、開いていくことによって、造形芸術の意味をあらためて問い直します。

さらに、専門的な知識として学びとったものを前提としながらも、繰り返し新しい視点からの分析や解釈を実践し、研究のあり方や理論の更新をし、新たな創造の可能性を探索する。造形芸術領域の学術研究者のほか、制作をはじめとする造形教育や批評、美術館などの活動に寄与する人材を対象とします。

学生は、入学すると「造形芸術特論」（2 単位）を履修します。これは、博士後期課程における研究を遂行するために、造形芸術をめぐる多様な研究事例をもとに、研究課題の設定や先行研究の調査など研究計画について指導するものです。

さらに、1、2 年次の間に「作品制作研究Ⅰ・Ⅱ」、「環境形成研究Ⅰ・Ⅱ」、「美術理論研究Ⅰ・Ⅱ」の中から各学年 2 単位、2 年間で 4 単位を選択し履修します。この履修についてはコーディネータが助言や支援を行い、必要があれば、他の研究領域の教員からの指導や支援を受けることもできます。

2、3 年次では「総合研究Ⅰ・Ⅱ」（各学年 2 単位、2 年間で 4 単位）を履修することによって制作・研究活動についてアカデミックな視点から指導を受けます。また、「総合研究Ⅰ・Ⅱ」では、複数の教員により、博士論文の指導も受けることになります。以上、3 年間に併せて 10 単位以上を修得します。

授業科目および単位数

造形研究科 博士後期課程 / 単位表

〈造形芸術専攻〉

学年	1		2		3	
科目区分	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修	造形芸術特論	2	総合研究Ⅰ	2	総合研究Ⅱ	2
選択必修	作品制作研究Ⅰ	2	作品制作研究Ⅱ	2		
	環境形成研究Ⅰ	2	環境形成研究Ⅱ	2		
	美術理論研究Ⅰ	2	美術理論研究Ⅱ	2		

2025 年 4 月 1 日発行

武蔵野美術大学 大学院造形研究科履修要項 2025

発行……………武蔵野美術大学

〒 187-8505 東京都小平市小川町 1-736

電話 042-342-6044 (教務チーム)

印刷……………プリンティングイン株式会社

武蔵野美術大学ホームページ

<https://www.musabi.ac.jp/>

関係諸規則については、こちらをご参照ください。

<https://www.musabi.ac.jp/outline/about/regulation/>

The logo consists of a thick, dark gray square frame. Inside the frame, the text "Musashino Art University" is displayed in a bold, dark gray, sans-serif font, stacked in three lines.

**Musashino
Art
University**

The logo consists of a large, thick, light orange square frame. Inside this frame, the text "Musashino Art University" is written in a bold, dark gray sans-serif font. The text is stacked in three lines: "Musashino" on the top line, "Art" on the middle line, and "University" on the bottom line. The entire logo is positioned in the upper right quadrant of the page.

**Musashino
Art
University**